

日本スポーツ社会学会会報

VOL. 82



=目次=

1. 第33回大会実行委員会 実施要項
2. 第33回大会における研究委員会の企画
 - 2-1. 研究委員会企画シンポジウム
 - 2-2. 学生企画シンポジウム
3. 第33回大会における実行委員会企画シンポジウム
4. 各委員会からのお知らせ
 - 4-1. 編集委員会
 - 4-2. 研究委員会
 - 4-3. 国際交流委員会
 - 4-4. 電子ジャーナル委員会
 - 4-5. 広報委員会
 - 4-6. 学生研究奨励賞選考委員会
 - 4-7. 学会賞選考委員会
5. 事務局より
 - 5-1. 2023年度理事会議事録
 - 5-2. 事務局からのお知らせ
6. 編集後記

1. 第33回大会実行委員会 実施要項

大会参加を予定されている皆様へ

新型コロナウイルス感染の心配はなくなり、第33回大会は完全対面方式で開催します。本会報には〔第3報〕の大会要項を掲載していますが、大会ホームページには要項の修正・追記があった場合には、最新版をアップロードしています。ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。

日本スポーツ社会学会第33回大会 実施要項

〔第3報〕

1. 開催期間

2024年3月16日（土）・17日（日）

2. 会場

日本大学スポーツ科学部・三軒茶屋キャンパス
東京都世田谷区下馬3-34-1

3. 主催

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

4. 日程

スケジュールは変更になることがあります。

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30	18:00	18:30	20:30
1日目 3月16日	受付													
	受付	学生フォーラム		休憩・移動	一般発表	昼休憩	一般発表	休憩・移動	研究委員会企画			休憩・移動	総会	懇親会
2日目 3月17日	受付													
	受付	一般発表			昼休憩	実行委員会企画			休憩・移動	一般発表			クロージング	

5. 大会までの主なスケジュール

- 一般研究発表申込 2023年12月22日(金) 締切
- 一般研究発表抄録提出 2024年1月25日(木) 締切
- 大会参加早期申込(早割) 2024年1月31日(水) 締切

6. 大会参加申し込み

第33回大会ホームページ <https://spsociology.org/> に設定した Google フォームからの参加申し込み手続きと同時に、参加費及び懇親会費を大会実行委員会口座までご入金ください。専用の振込用紙は郵送いたしませんのでご了承ください。

大会参加費の早期割引を受けるためには Google フォームからの「参加申込手続き」及び「入金」がともに以下の締切日(ゆうちょ銀行等に記録される入金日)までに完了していることが必要です。

- 「早期」 参加費 ▶ 締切日 2024年1月31日(水)
- 「通常」 参加費 ▶ 締切日 2024年3月15日(金)

【大会参加費】

今大会では「当日」参加費を「早割」「通常」の参加費とは別に設定をしております。お手数でも「早割」「通常」でのご入金をお願いいたします。

種 別	早 割	通 常	当 日	懇 親 会 費
正 会 員	5,000 円	6,000 円	7,000 円	5,000 円
学 生 会 員	2,000 円	3,000 円	4,000 円	3,000 円
非会員・一般	6,000 円		7,000 円	5,000 円
非会員・学生	3,000 円		4,000 円	3,000 円

【懇親会】

日 時： 3月16日(土) 18:30～(予定)
 会 場： 1号館 学生食堂

【参加費等振込先】

振 替 口 座	00970-9-334985
他行からの振込の場合	ゆうちょ銀行 ○九九店 当座 0334985
口 座 名 称	日本スポーツ社会学会大会実行委員会

※研究委員会企画シンポジウムは、日本スポーツ体育健康科学学術連合の協賛を受けて

おります。

※「一般公開」のシンポジウムですので、どなたでも参加料無料で聴講いただけます。

7. 一般研究発表申し込み

「学会大会一般発表に関する細則」が2022年10月3日より施行されています。発表者は細則を確認してから発表申し込みを行ってください。

(1) 発表申込締切日 2023年12月22日(金)

大会ホームページ(<https://spsociology.org/>)の「申し込み(参加・発表)」Googleフォームから必要事項を入力し、送信していただくことで、発表申込みができます。

発表者は、1200~1600字程度(英文の場合は300ワード程度)で発表内容について発表概要ファイルを作成し、事務局メールアドレス jsss33th@gmail.com へ添付ファイルで送信してください。

● 発表抄録原稿用テンプレートは、大会ホームページからダウンロードしてください。

発表概要の内容は、研究委員会にて審査がおこなわれます。申込時、概要の字数・形式は必ず守ってください。

(2) 一般研究発表の資格に関する注意事項

「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第5条による一般研究の発表者の資格は以下の通りです。

- 1) 発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。
- 2) 発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。
- 3) 発表者は大会参加費を納めていること。
- 4) 大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

● 発表者は、「年会費」「参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表できません。納入の確認が必要な場合、年会費については「会員情報管理システム SOLTI」でご確認いただき、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

・年会費：会員情報管理システム<SOLTI>

<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JSSS>

・大会参加費：大会実行委員会メールアドレス jsss33th@gmail.com

・学会事務局メールアドレス jsss jimukyoku@gmail.com

(3) 発表抄録原稿の提出締切日 2024年1月25日(木)

発表申込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査がおこなわれます。申込時、概要の字数・形式は必ず守ってください。審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

- 発表抄録原稿用テンプレートは、大会 HP からダウンロードできます。書式を利用するには、Microsoft Office Word2013（あるいはそれ以降の年式）が必要です。
- テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿は、2024年1月25日(木)までに、以下の Dropbox URL からアップロードしてください。
- 発表抄録原稿提出用の Dropbox URL
<https://www.dropbox.com/request/zANWpfsP9micT2KOza7>
- 抄録原稿の提出締切日は厳守ください。締切日を過ぎた発表演題については発表を許可しません。

(4) 一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は、発表20分、質疑応答10分です。発表の際に必要な機器がある場合（PCおよびプロジェクター以外）は、発表申込みの際に、当該箇所にその旨を記載して、申し出てください。パワーポイントによる発表を希望する方は、USBメモリにデータを持参してください。当日、発表資料を配付する場合は、各自で70部以上を持参してください。

8. 昼食について

3月16日（土）：学生食堂は営業しています。

3月17日（日）：学生食堂は**休業**しています。各自ご準備いただくか大学周辺の飲食店等をご利用ください。

9. 宿泊の斡旋について

宿泊の斡旋は行っておりません。

10. 学会大会実行委員会

実行委員長 水上博司（日本大学文理学部）
会場責任者 加藤幸真（日本大学スポーツ科学部）
実行委員 北田典子（日本大学スポーツ科学部）
実行委員 松尾絵梨子（日本大学スポーツ科学部）
実行委員 石岡丈昇（日本大学文理学部）
実行委員 吉田明子（日本大学文理学部）
実行委員 加藤秀治（日本大学国際関係学部）

11. 大会に関する問い合わせ先

第33回学会大会実行委員会 会場責任者 加藤幸真（日本大学スポーツ科学部）

Email : jsss33th@gmail.com

お問い合わせの際は、件名に【第33回スポーツ社会学会大会について】とお入れください。

12. 会場アクセス

東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅下車 徒歩10分

東急東横線「祐天寺」駅から東急バスで10分「日大前」下車

https://www.nihon-u.ac.jp/sports_sciences/

2. 第33回大会における研究委員会の企画

2-1. 研究委員会企画シンポジウム

2024年3月16日（土）15:00～17:30

「新しい声」を聞き届けるために考えるべきこと
—スポーツにおける男性性問題のこれから—

男性性問題とは一体何か。それは、意図的であるかどうかに関わらず、男性が自ら持つ権力性やマジョリティ性によって、男性自身を含む他の誰かを傷つけてしまうという「有害な男性性 toxic masculinity」の問題である。スポーツの世界に生きる男性たちは、長年この問題に苦しみ続けてきた。彼らは、脱ぎ捨てるべきはずの鎧を脱ぎ捨てることができないジレンマに追われ続けてきたのである。

ところがここ数年、スポーツと男性性をめぐって興味深い変化が起こり始めている。その象徴が、前回の夏の甲子園で優勝した慶応義塾高校である。彼らの掲げた「エンジョイ・ベースボール」の姿勢は、練習中や試合中に「笑顔を見せてはならない」、指導者や上級生に「逆らってはいけない」、高校球児は「丸坊主でなければならない」といった男性的なスポーツ観に対する強烈なアンチテーゼとなった。そして現在、彼らの「エンジョイ」という声（信条）はさまざまなスポーツクラブに届き、クラブのあり方を変化させつつある。

また、あまり知られていないかもしれないが、日本ラグビーフットボール選手会が中心となってはじめた「よわいはつよいプロジェクト」も変化を示す現象の一つである。このプロジェクトは、(主に男性の)アスリートにも心のケアが必要であることを広く伝えていく、アスリート自身による草の根の活動である。アスリートには、心身ともに強いというイメージがあるが、しかし実際にはそうではなく、多くのアスリートがメンタル不調を抱えている。このプロジェクトは、そうした心に不安を抱えるアスリートの声をひとつひとつ聞き届けることによって、誰もが弱音を吐けるスポーツ環境を作ることを目指している。

このように近年では、スポーツが抱えてきた男性性問題に対する「新しい声」がいくつも表出するようになった。こうした新しい時代の新しい声を聞き届けることこそが、「有害」とされている男性的なスポーツの世界を変える大きな一歩となる。そのためにスポーツ社会学は、その声がどこから生まれ、男性性問題に対してどのようなインパクトがあるのか、旧態依然とした男性的なスポーツ環境を変化させるにはさらに何が必要であるかを考えていかなければならないだろう。

研究委員会では、こうした問題について考えるために、現代の男性性問題についてフェミニズムの視座から重要な指摘を行っている河野真太郎氏、スポーツの「マチヅモ」問題に対して鋭い批評を行っている武田砂鉄氏、そして日本の体育会系問題についてジェンダー視点から重要な研究を行っている片岡栄美氏の3名をお招きし、シンポジウムを開催することとした。シンポジウムを通じて、スポーツ男性性研究に新しい風を吹き込み、より

豊潤な議論ができる土台を作ることを目指したい。

・登壇者

河野 真太郎（専修大学）

武田 砂鉄（批評家、フリーライター）

片岡 栄美（駒澤大学）

・ディスカッサント

竹崎 一真（明治大学）

・司会

溝口 紀子（日本女子体育大学）

2-2. 学生企画シンポジウム

日時：2024年3月16日（土） 9:30-11:00

研究者の当事者性とカテゴリーを取り扱うことの難しさ

本企画のねらいは、「当事者性」を手掛かりとして、①障害学およびジェンダー・スタディーズを参照し、それらをスポーツ社会学に接続することに挑戦すること、②研究者自身のポジション（本企画の企図する当事者性）を再考する機会を得ることにある。

社会的不平等としてのカテゴリー（障害、ジェンダー）は、今日の資本主義社会における重要な社会問題として現れるのみならず、スポーツにおいても類似した問題を誘発している。スポーツ社会学の俎上で、こうした重大なコンフリクトの顕在化を扱う以上、カテゴリーを予見的に存在するものとして見なすことなく、極めて慎重に取り扱わねばならない。

こうしたカテゴリーの扱い方の難しさは、一般的な意味での当事者的立場にある研究者からも提起されてきた。そのおひとりが星加良司氏（東京大学）である。星加氏は、日本における障害学の第一人者として、障害を社会現象として分析なさっており、ディスアビリティ（障害）が「不利益」として現れる社会生成的側面やメカニズムなどを解明されてきた。

本企画では、「障害」に関する概念規定や障害学の方法論に関する議論を、極めて体系的かつ精緻に扱っておられる星加氏にご登壇賜る。星加氏には、「障害」というカテゴリーや「カテゴリーと深く結合している当事者性」あるいは「当事者学としての障害学」を参照枠としながら、現代資本主義社会（また、そのもとで実践されるスポーツ文化）において、それが非階級的要素や社会現象として、どのような社会問題を顕在化させてきたのか。星加氏ご自身にとっての当事者的な視点、また障害学/社会学的見地において、その超克の契機を、どこに見出しうるのか、といった内容について、提起していただく予定である。

そのうえで、星加先生のご報告を、カテゴリー全般に広く関わる問題と接続させたい。そこで、ジェンダー・スタディーズ領域にご精通なさっている研究者（現在、調整中）にご登壇賜る予定である。そこでは上述の議論を引き受けながらも、それをジェンダー・スタディーズ/スポーツ社会学と接続するために、いくつかの論点から、ご報告いただく予定である。

以上の議論は、「インターセクショナルリティ」に象徴される現代的な議論に接続可能であると同時に、スポーツ社会学における一般化の余地を残している。それは、「研究者自身が、

特定の属性やポジション」に基づきながら、研究を遂行するという点である。この意味で、研究者はある種の「当事者」的視座に立脚しており、その視座によって切り開かれる可能性、あるいは当事者であるがゆえに直面する課題を抱えているのではないだろうか。

そうであるならば、お二方のご報告は、カテゴリーの横断的な議論に留まらず、何らかの対象を当事者として扱う（＝スポーツを扱う）という点で、本学会会員の学術研究という活動そのものに、広く一般化可能な射程を持ち合わせている、と考えている次第である。

基調報告者：星加良司（東京大学大学院教育学研究科 教授）

指定討論者：現在調整中 後日、大会 HP にて掲載予定

司会：村下慣一（学生フォーラム世話人；立命館大学大学院）

高田侑子（同上；順天堂大学大学院）

堀田文郎（同上；立教大学大学院）

3. 第 33 回大会における実行委員会企画シンポジウム

日時：2024 年 3 月 17 日（日） 13：00～15：40

「する」スポーツ再考：「語って」ばかりのスポーツ研究から脱するために

スポーツ社会学者のひとつのパラドクスは、スポーツ社会学者自身が、実はスポーツを日常的にはおこなわない点にある（と仮定してみたい）。大いにスポーツを語りはする。だが全然おこなわない。スポーツ社会「学者」になっていくなかで、スポーツについて語ったり論じたりすることはあっても、汗を流してスポーツを実践する機会は少なくなっていくのだ。いや、自分はスポーツをしているという者もいるだろう。でも往々にしてそれらは、体育実技の授業だったり、部活やサークルの顧問であったり、要はあてがわれた役割のなかで業務として関わっているに過ぎない。スポーツ社会学者はみずから進んでスポーツはしない。このテーゼについて、本シンポジウムでは考えてみたい。

こうしたスポーツ社会学者の隠された態度は、実は研究の志向性とも関連している。過去 10 年ほどのスポーツ社会学会のシンポジウムのテーマをみても、「みる」スポーツ（五輪やワールドカップなど）が取り上げられることがあっても、「する」スポーツについて注目されることはほとんどなかった。スポーツ社会学者は、「みる」スポーツについて「語って」ばかりなわけである。

こうした状況に一矢報いるために、本セッションでは、「する」スポーツを再考したい。登壇いただくのは、日常的にスポーツを実践しているスポーツ研究者の方々である。「する」スポーツの現場を見てみると、スマホアプリを使ったテクノロジーの利用をはじめ、さまざまな今日の変化が生まれている。こうした“21 世紀の「する」スポーツ論”の可能性を考えるのが、本セッションのねらいである。

登壇者

山本敦久（成城大学）

田巻以津香（東海大学）

堀田文郎（立教大学大学院）

司会

石岡丈昇（日本大学）

4. 各委員会からのお知らせ

4-1. 編集委員会

今期の編集委員会は、基本的に月1回の定例会議をオンラインで開催し、投稿論文への対応や編集作業を進めてきました。前期に行われた改革の恩恵で投稿数が大幅に増えていますが、それに伴う査読依頼数の増加については学会会員諸氏のおかげでなんとか対応できております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

作業量が大幅に増えた関係から、編集業務を常に完璧にこなせているとは申しませんが、現編集委員会メンバーも精力的に任務にあたってくださいしていますので、委員長として日々感謝しております。

編集委員長 西山哲郎（関西大学）

4-2. 研究委員会

①学会大会における事業については、本会報の下記をご参照下さい。

2. 第33回大会における研究委員会企画

- (1) 研究委員会企画
- (2) 学生企画シンポジウム

②2023年度の研究セミナーを2024年1月に開催いたします。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

内容：スポーツをめぐる男性性権力とその交差性

日時：2024年1月27日（土）10時00分～12時00分

会場：Zoomによるオンライン開催

概要：男性性問題とは、単なる男性“の”問題でもなければ、男性ジェンダーのこと“のみ”を指すわけでもない。「男性性」をめぐる私たちの認識は、男性以外のあらゆる側面（その他のジェンダーやセクシュアリティ、人種など）に影響を及ぼし、また及ぼされてもいる。本セミナーでは、スポーツにおける男性性という権力に新たな視点から取り組むことで、男性性の強度や可変性について議論を行っていく。

登壇者：報告者①：竹崎 一真（明治大学）

報告者②：岡田 桂（立命館大学）

指定討論者：関 めぐみ（甲南大学）

司会：山口 理恵子（城西大学）

参加希望の方は、1月25日（木）までに <https://forms.gle/A4tk46jJsfNicRH79> より、お申し込みください。期日までに申し込みをされた方にのみ、ZoomのミーティングIDとパスコードをご連絡いたします。なおセミナーの内容は、期間限定でオンデマンド配

信もいたします。オンデマンドをご希望の方も、上記のフォームよりお申し込みください。

詳細については下記 URL も合わせて御覧ください。

<https://1drv.ms/b/s!AqY9Fs7kf3jczR8C4i51J88R5dZZ?e=zBcrur>

問い合わせ先：竹崎一真（明治大学） k_takezaki@meiji.ac.jp

③その他、下記の事業を実施しました。

- ・2023年度第1回学生フォーラム 2023年7月15日（土）
報告者4名、参加者20名
- ・2023年度第2回学生フォーラム 2023年12月10日（日）
報告者4名、参加者20名

研究委員長 高尾将幸（東海大学）

4-3. 国際交流委員会

今期の国際交流委員会では、韓国スポーツ社会学会との友好覚書の締結に向けた作業を進めて参りました。その結果、2023年5月8日付で無事締結に至りましたことをご報告申し上げます。この覚書に基づく韓国スポーツ社会学会との交流事業について、先方と意見交換を重ねているところです。

加えて、「海外研究者招聘による企画の協力に関する内規」（2022年度策定）を今年度より運用しております。学会員のみなさまにおかれましては、海外研究者を招聘し、シンポジウム・セミナー等を企画される際に、適宜ご活用いただければ幸いです。

さらに、国際スポーツ社会学会の2025年大会が韓国ソウルで開催予定です。国際交流委員会としましても、これに関する情報収集および会員への情報共有を進めて参りたいと思います。

その他、海外研究者を交えたセミナー等を、随時企画・開催したいと考えております。なお、学会大会での国際交流委員会企画シンポジウムの開催は隔年となっているため、第33回大会では同シンポジウムは開催されません。

国際交流委員長 金子史弥（立命館大学）

4-4. 電子ジャーナル委員会

第30巻2号（2022年9月30日発行）の発行から1年が経過しましたので、特集論文がJ-Stage上に公開されました。

特集テーマ「『つながり』語りのウソも、マコトも」

- ・水上博司「特集のねらい」
- ・杉本厚夫「遊びにおける『つながり』が相対化する社会—空間・時間・仲間を地図として—」
- ・原祐一「『ゲーム』としてのスポーツ—つながる場のデザイナー—」

- ・梅垣明美「人と人がつながるとは一聖書が教えるマコトのつながりに向けて一」
- ・田中彰吾「間身体性の観点から障害者スポーツを通じた『つながり』を考える」
- ・植田俊，山崎貴史，渡正「障害者スポーツにおけるつながりの生成—視覚障害者ランナーと伴走者を事例として—」

第 31 巻 1 号（2023 年 3 月 30 日発行）と第 31 巻第 2 号（9 月 30 日発行）の掲載論文も、それぞれ J-Stage にて本公開されています。

<第 31 巻第 1 号>

- ・宮本幸子「子どものスポーツ活動をめぐる母親たちの社会関係資本—なぜ母親たちは「周辺の役割」を担い続けるのか—」
- ・堀田文郎，松尾哲矢「ボディビルへと専心する人々の論理とその過程に関する研究—ボディビルダーの身体的次元に着目して—」
- ・宮澤優士「サーファーが環境保全を訴えるとき—千葉県長生郡—宮町の事例から—」

<第 31 巻第 2 号>

- ・三上純「体育教師の固定的なジェンダー観と運動部活動文化の関連について—運動部活動経験が体育教師志望に与える影響の分析から—」
- ・木村宏人「プロ・スポーツクラブにおけるボランティア空間と公共性—B リーグ試合運営のフィールドワークから—」
- ・有賀ゆうアニス「アスリートとしての反レイシズム実践とそのジレンマ—ある日本プロ野球選手の Black Lives Matter 運動に関するソーシャルメディア投稿を事例に—」
- ・小石川聖「1950-60 年代のスポーツ中継におけるリプレイ技術に関するメディア論的考察」

2024 年 3 月に発行される 32 巻第 1 号に掲載予定の論文につきましても、紙媒体刊行の 2 ヶ月前までに受理された論文がありましたら、J-Stage で早期公開させていただきます。

電子ジャーナル委員長 高峰修（明治大学）

4-5. 広報委員会

広報委員会は、公式ホームページやメーリングリストによる情報提供と、会報の編集・発行を主な業務としております。会員の皆様には、会員に広く告知してほしい研究セミナーや交流研究会などございましたら、積極的に情報提供いただければ幸いです。jsss.kouhou@gmail.com にて、随時受け付けています。お気軽にお寄せください。

広報委員長 水野英莉（流通科学大学）

4-6. 学生研究奨励賞選考委員会

学生研究奨励賞選考委員会は、学生会員の皆さんの優秀な研究を、論文部門と発表部門に分けて表彰します。論文部門については、2023 年 12 月現在、『スポーツ社会学研究』31 巻 1 号および 31 巻 2 号に掲載された 6 論文を対象として審査中です。発表部門については、日本大学で開催予定の日本スポーツ社会学会第 33 回大会（2024 年 3 月）での口頭発

表が審査対象となります。いずれも、第 33 回大会のクロージング時に表彰を行う予定です。

近年、学生フォーラム等を通じて学生会員の皆さんの研究活動が活発化しています。学生会員の皆さんにおかれましては、この制度をきっかけとして積極的に研究成果を公表していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学生研究奨励賞選考委員長 笹生心太（東京女子体育大学）

4-7. 学会賞選考委員会

学会賞は 2024（令和 6）年度が審査年となっています。2024 年 4 月より会員の皆様へ論文部門と著書部門の二部門の推薦（自薦・他薦）をご依頼する予定（推薦締切は 2024 年 9 月 30 日）です。改めてご案内を申し上げますが、以下の期間に発表された研究成果を対象としています。その際には、多くの学会賞候補をご推薦いただきますようお願いを申し上げます。

論文部門 2022 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日

著書部門 2021 年 10 月 1 日から 2024 年 9 月 30 日

学会賞選考委員長 水上博司（日本大学）

5. 事務局より

5-1. 2023 年度理事会議事録（第 4 回～第 11 回）

2023 年度 第 4 回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023 年 7 月 1 日（土）～7 月 2 日（日）

議 題：会則（付則）の改正について

付則

1.本会則は、総会において出席者の 3 分の 2 以上を得た決議により変更することができる。なお、付則 2.事務局の所在地については、総会の決議を経ずに変更できるものとする。

2.本会の事務局は当分の間、日本女子大学人間社会学部現代社会学科大沼義彦研究室内（東京都文京区目白台 2 丁目 8-1）に置く。

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

2023 年度 第 5 回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023 年 7 月 7 日（金）～7 月 9 日（日）

議 題：会則（付則）の改正再提案について

付則の改正（案）【変更理由】：ゆうちょ銀行口座の移転にあたり、事務局記載部分の修正が必要となったため。

訂正後	訂正前
付則 2. 本会の所在地を、東京都文京区目白台 2 丁目 8 - 1 日本女子大学現代社会学科大沼研究室内に置く。 2023 年 7 月 ● 日 改正 （改正日は理事会承認日）	付則 2. 本会の事務局は当分の間、日本女子大学人間社会学部現代社会学科大沼義彦研究室（東京都文京区目白台 2 丁目 8 - 1）に置く。

 上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

2023 年度 第 6 回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023 年 7 月 21 日（金）～7 月 27 日（木）

議 題：日本スポーツ体育健康科学学術連合 2024-26 年度の役員選挙の投票について

学術連合の(1)代表（単記）、(2)副代表（単記）、(3)運営委員（3 名連記）、(4)監事（単記）の投票について、次の①から③の原案を審議した。

- ① 被選挙人名簿から候補者を推薦する
- ② ①の推薦者があった場合には、本理事会にて投票者として審議する
- ③ ①の推薦者がなかった場合には、会長、理事長、事務局長の三役に投票を一任する

 上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。なお、(1)の推薦がなかったため、③で投票をおこなった。

2023 年度 第 7 回理事会

日 時：2023 年 9 月 1 日（金）16:30～18:30

場 所：同志社大学今出川キャンパス RY402 教室 対面及び zoom オンライン

出席者（対面）：秋吉遼子、金子史弥、笹生心太、杉本厚夫（監事）、高尾将幸、高峰修、中澤篤史、原祐一、前田博子（監事）、松尾哲矢、水上博司、村本宗太郎、渡正

出席者（遠隔）：岡田千あき、水野英莉、溝口紀子、山口理恵子

欠席者：西山哲郎

議事録担当：村本宗太郎

1. 第4回～第6回理事会（臨時・持ち回り会議）について
水上理事長より各回理事会について報告がなされた。
2. 2023年各委員会の活動進捗状況、活動計画および中間決算報告について
各委員会の活動について、資料のとおり活動報告および活動計画の提案がなされた。
 1. 編集委員会（中澤委員） 報告&審議資料 2-1
資料に基づき報告があり了承された。
 2. 研究委員会（高尾委員長） 報告&審議資料 2-2
資料に基づき報告があり了承された。
 3. 国際交流委員会（金子委員長） 報告&審議資料 2-3
資料に基づき報告があり了承された。
 4. 広報委員会（水野委員長） 報告&審議資料 2-4
資料に基づき報告があり了承された。
金子会員より、学会ホームページにおける国際スポーツ社会学会へのリンクが接続できなくなっているため、国際スポーツ社会学会への新しいリンクの修正が依頼された。水野会員より、広報委員会で確認および対応することが回答された。
 5. 電子ジャーナル委員会（高峰委員長）
早期公開のタイミングに関し、発刊日の2か月前を過ぎてから発刊が決まった場合、J-STAGEに公開しない規程があるため、創文企画から連絡がありJ-STAGEに公開しないこととなった。論文タイトルミスの修正依頼があったため、31巻2号に向けて編集委員会で修正を確認し、修正したファイルをあげることが報告された。
 6. 学生研究奨励賞選考委員会（笹生委員長） 報告&審議資料 2-6
資料に基づき報告があり了承された。
 7. 学会賞選考委員会（水上委員長） 報告&審議資料 2-7
資料に基づき、2022年度は選考対象なしで審査が終了したこと、対象があれば2025年3月に選考結果報告と授与が行われることが報告された。
各委員会からの報告および活動計画の提案に対して異議などなく、すべての報告および提案が承認された。
 8. 事務局 報告&審議資料 2-8

大沼事務局長より、資料に基づき 2023 年中間決算および 2024 年予算の報告がなされた。報告に対して以下のような質問があり、→ 以降の通り回答・審議がなされた。

- 運営費に比して資産額が大きい用途について決めておいた方が良いのではないかと、また、関連して特別予算会計について何を目的とした特別予算であるのか質問がなされた。→ 単年度でみると余剰金があるわけではなく、今後資産が増えるかも不透明であるので用途は決めていないことが回答された。また、特別会計の余剰金は国際スポーツ社会学会第 25 回大会の余剰金となっていること、今後、使途等については検討することが回答された。
- 2024 年の学会賞がゼロとなっているが、学会賞対象である書籍の購入費はどの項目で計上されるのか質問がなされた。→ 2024 年予算で計上することおよび補正予算で検討することが回答された。

3. 第 32 回学会大会の監査報告について 報告資料 3

大沼事務局長より、資料に基づき第 32 回大会の決算報告がなされた。第 32 回学会大会の監査にあたっては、当初の決算報告書類に若干の不備があったため訂正依頼をした結果、大会実行委員会より再度提出されたことも報告された。

監事より監査報告がなされ、異議などなく承認された。

4. 『スポーツ社会学事典』の刊行について

松尾会長より事典刊行に向けた進捗が報告された。2024 年 11 月が校了目途であり、2024 年中の出版を目指していることが報告された。

5. その他

特になし。

< 審議事項 >

1. 第 33 回大会（日本大学）の開催について（大会開催校・水上会員） 審議資料 1

水上理事長より、審議資料にもとづき実行委員会企画の内容が提案された。異議などなく承認された。

水上理事長より、大学施設利用料、懇親会、今後の予定（10 月上旬から中旬にかけて大会要項第 1 案を理事会に諮りメール審議を行うこと、10 月中旬に学会大会 HP 公開すること、12 月 22 日に発表申込締切となること）が報告された。

2. 各委員会からの審議事項

台湾・韓国との国際学会の開催について（国際交流委員会）

金子会員より、台湾のスポーツ社会学会会長より、2024 年の国際スポーツ社会学会がオンライン開催となることから、日本・台湾・韓国の 3 か国の地域レベルでスポーツ社会学に関する国際会議を開催したい旨の連絡があったことが報告された。

本理事会での審議事項として、同会議に対する日本スポーツ社会学会としての方向性を決めることが提起された。審議の結果、現状では開催に関する詳細が分からず、話が具体化しないと対応を決めかねるため、今後先方との話し合いには参加していく方針を取ることが確認された。ただし、日本での開催は厳しいこと、台湾・韓国でスキームを立てられれば参加の可能性もあること、開催される場合には学会員に対する広報や若手研究者の発表のサポートを行うことが確認された。

3. 事務局からの審議事項

3-1.学会誌の在庫管理、及び在庫の販売について（事務局） 審議資料 4-1

大沼事務局長より、筑波大学の高橋会員から、これまでに発刊された学会誌の在庫が多く残っているため対応を求められていることが報告された。

中澤会員より、学会大会で安く販売することに賛成する意見が出された。

高峰会員より、廉価販売後の在庫扱いについて決めておいた方が良いのではないかとする意見が出された。

事務局が、残部学会誌の出版元である法政大学出版局に廉価販売することに関して確認を取ることであった。販売を行う場合、3月の学会大会で価格を500円として販売することとする。販売については学会ホームページでも告知を行い、販売後の残部については期限を決めて廃棄することが確認された。

3-2.入・退会者について（事務局） 審議資料 4-2

大沼事務局長より、新規入会希望者11名が提案された。

推薦者のいない2名について事務局推薦として異議はなく、出席者が2名の履歴書の確認を行い、承認された。なお、入会日については、入金を確認された日をもって正式入会としたいことが報告された。

3-3.大会者データの管理について（事務局）

大沼事務局長より、2024年4月から会員管理登録システムが値上げされること管理会社より告知があった旨が報告された。非アクティブ会員については削除するのではなく事務局での管理とし、システムを軽くしていくことが提案された。

監事より退会者と除籍者の扱いの区別がされているのか質問がだされた。

大沼事務局長より両者の違いについては会員の状況を確認しながら進めていくこと、除籍者については削除せず、情報が残る形で事務局が管理することが回答された。

4. その他（次回、理事会予定等）

期日：2024年3月16日（土）

場所：日本大学スポーツ科学部（三軒茶屋キャンパス）対面での実施予定

前田監事より挨拶がなされた。

杉本監事より、繰越金については用途を決めた方が良く、繰越金の用途として若手研究者が海外発表を行う際の助成として使用することが提案された。加えて、学会は社会貢献が求められているので、社会貢献のためのプロジェクトを立ち上げることが提案された。

松尾会長より、挨拶がなされた。

以上

2023年度 第8回理事会（臨時：メール稟議）

日時：2023年9月16日（土）～9月20日（水）

議題：

(1)第33回学会大会 実施要項第1報（案）について

(2)会員の入退会について

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

2023年度 第9回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023年9月27日（水）～9月30日（土）

議 題：

- (1)韓国スポーツ社会学会（11/24、忠州市）のシンポジウム登壇者の派遣について
- (2)韓国スポーツ社会学会の一般口頭発表者の募集案内メールの配信について
- (3)会員の入会について

- (1)韓国スポーツ社会学会のシンポジウム登壇者の派遣について

日 時：11月24日（金）

派遣先：韓国スポーツ社会学会の年次大会

場 所：忠州市：ソウルからバス移動で2時間

派遣内容：シンポジウム登壇者

テーマ：スポーツにおける両極化（polarization in sport）における日本の現状（仮題）

使用言語：日本語（通訳有）

派遣者：国際交流委員会 委員長

- (2)韓国スポーツ社会学会定例大会の発表者募集の案内をした。
- (3)会員の新規入会を審議した。

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認されたが、(1)については、2023年10月9日付で、韓国スポーツ社会学会理事会にて、「今回の学会大会では外国からのゲストを招聘しない」という決定がなされたというメールが届いた。このような理事会の決定を受け、国際交流委員会委員長、会長、理事長、事務局長の4者で話し合いをし、今回は派遣しないことを決定した。

2023年度 第10回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023年11月2日（木）～11月4日（土）

議 題：新規会員の入会について

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

2023年度 第11回理事会（臨時：メール稟議）

日 時：2023年11月28日（火）～11月30日（木）

議 題：新規会員の入会について

上記議題は、審議の結果、原案のとおり承認された。

以上

5-2. 事務局からのお知らせ

2023 年度年会費納入のお願い、及び住所、所属先等登録情報のご確認について

すでにご案内しているところですが、2023 年度の年会費納入がまだお済でない場合は、至急納入をお願いいたします。2 年間会費を滞納しますと、会員資格を失います（会則第 8 条）ので、ご留意願います。

また、年度末にかけて、ご住所、所属先等、異動がある会員もいらっしゃるかと存じます。学会誌送付の際に必要な情報となりますので、異動等、登録情報に変更がある場合には、学会ホームページの個人ページにて変更をお願いいたします。ログイン時に求められる ID、及びパスワードがご不明の方がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせ下さい。登録されているログイン情報を事務局よりご連絡させていただきます。

事務局長	大沼 義彦（日本女子大学）
事務局次長	渡 正（順天堂大学）
事務局員	村本宗太郎（立教大学）

6. 編集後記

本号では主に、日本大学三軒茶屋キャンパスを会場校として 2024 年 3 月に開催される日本スポーツ社会学会第 33 回についての情報を掲載しております。いよいよ完全対面方式が復活することになるようです。今回も充実した企画をご準備いただいておりますので、みなさまどうぞふるってご参加のほどお願い申し上げます。

広報委員会 水野英莉